

平成 24 年度(8-3 月期) 事業計画

公益社団法人 日本滑空協会

平成 24 年度 (8 ~ 3 月期) 事業計画

公益社団法人 日本滑空協会

本年度は、公益社団法人として最初の事業年度となります。8 月 1 日付で公益社団法人に移行登記したことに対応し、8 月 ~ 翌 3 月までの期間の事業計画となります。

平成 24 年度目標

協会と各地滑空団体との連携強化

協会は滑空場や滑空機などを所有せず、飛行活動を直接実施することは不可能です。そこで今後の協会事業方針として、協会は統括団体でなければ出来ない、航空行政あるいは航空団体への働きかけ、その結果得られる情報の滑空団体への提供、各地滑空団体のイベントを当協会ホームページやメーリングリスト等で全国に提供する、などに専念します。そのためにもこれまで以上に、各地滑空団体との連携を強化していく施策を講じることに重点を置きます。

3,000 人の滑空スポーツ愛好家への情報発信効率化を図ります。

経費削減を図りつつ、講習会を各地で開催し、滑空団体と当協会との絆をより深め、会員増加を図ります。

5 年スパン中期目標

協会調査によれば、国内滑空団体所属会員総数は 3,000 人、公益財団法人 日本学生航空連盟 OB は 10,000 人おります。国内滑空スポーツを統括する団体として、協会はこれらの人々全てを考慮した施策を実施します。また、“空”の仲間である航空スポーツ諸団体とも、航空スポーツ発展に寄与するための連携体制を強化します。

滑空スポーツ振興として、“安全”と“楽しさ”を目標とします。

“安全”について：滑空スポーツに関係する統括団体と滑空クラブ、指導者、パイロット、同乗者などにおいて、それぞれの義務と責任を明確化し、各自努力して安全性向上を図る体制を構築します。

“楽しさ”について：滑空スポーツに関係するすべての人々の“夢”の実現支援を協会事業とします。

滑空スポーツ愛好家活動を場周飛行とローカルソアリングから野外飛行に変え、競技会振興を図り、日本滑空選手権を再開します。

1. 滑空スポーツ統括普及に関する事業

1.1 滑空スポーツ関連の調査

* 国内滑空場マップの充実（全国 36 滑空場のうち 17 滑空場について当協会 HP に掲載）

* 滑空スポーツ基礎データ（滑空場、滑空機、機材、愛好者、活動）について、調査、集計。

2011 年度滑空統計調査を実施の際、全国約 60 の滑空団体中 47 団体から回答を得ており、今後も継続して調査を実施する。調査を通じて、より多くの滑空団体の活動状況を把握、結果を整理することで、国内の滑空活動の普及振興に還元できるように内容を充実させていく。

1.2 航空関係諸団体との連携、相談答申

* 諸官庁、FAI（IGC 及び CIMP）（一財）日本航空協会、航空スポーツ諸団体、公益財団法人 日本学生航空連盟および学生滑空クラブ、各地滑空団体との連携強化に努める。

* 滑空団体には、メーリングリスト等を通じて、協会からの各種情報提供の充実化と情報交換を活性化させる。

* FAI(IGC)ならびに諸官公庁との定期会議への出席、意見交換、提言を通じて、滑空活動の普及振興に還元させる。

1.3 航空イベント等への出展

* 展示デモ体験：今期実施計画なし。

1.4 情報発信：各種広報手段について内容充実、編集メンバー強化施策の実施

* ホームページ運営

協会ホームページへの各地滑空団体イベントなどの掲載推進。
ホームページ・レイアウト整理、システム強化。

* 機関誌発刊(今期は11、3月に発行予定)

内容充実を図るために、編集委員メンバーの増員が必須。

* 滑空スポーツ普及、航空安全等のキャンペーンをはじめとする情報発信について、適宜実施可能な体制を整える。

2. 滑空スポーツ愛好者育成に関する事業

2.1 指定航空従事者養成施設

* 養成コース開設として3回(長野、中航連、宝珠花)、計6名を予定。
(当初計画のうち、板倉、関宿は4~7月期で実施済み。)

2.2 日本滑空記章制度・操縦技量認定

記章制度充実化を図る

* 公式立会人・滑空記章試験員70人中55人の研修を23年度、24年4~7月期中に修了、未開催の関西東海、地区で研修会を滑空スポーツ講習会と同期して開催する。

* 記章制度の基礎となる“各章課程”の改訂の準備。特に銅章課程について、野外滑翔、競技飛行に関する部分の補強改訂に向けての準備を進める。

* 滑空記章試験員の専門委員会を設け、委員会活動として上記改訂等を推進させる準備を進める。

2.3 講習会・セミナー

* 滑空スポーツ講習会2012：滑空スポーツに関する専門的知識を各分野の中から選別。

10~3月にかけて全国各地2、3か所で順次実施する。

(当初計画のうち、1か所は長野で4~7月期で実施済み。)

* 航空安全講習会：技量維持連絡会(5団体)との連携し、年間20回程開催、うち協会主催として滑空機特化の内容で2回実施を予定。

(当初計画のうち、1か所は岐阜で4~7月期で実施済み。)

* 安全飛行大会(異常姿勢からの回復トレーニング)

若手パイロットの操縦技量向上を図ることを目的に、妻沼滑空場において飛行トレーニングを2日間実施する。

3. 滑空スポーツ競技会に関する事業

3.1 競技会主催：本年度実施見送り

3.2 競技会後援：協会表彰規程に基づいて実施

* 銅章レベルの滑空スポーツ競技会：日本滑空協会賞授与

* C章レベルの滑空スポーツ競技会：滑空奨励賞授与

* その他(滑空スポーツ記録会等)：滑空奨励努力賞授与

3.3 海外選手権への選手派遣(推薦、支援)

* 32nd FAI World Gliding Championships

15m, 18m, Open Classes 8/4~19, 2012 Uvalde, Texas, USA

World, Club, Standard Classes 1/5~20, 2013 Adolfo Gonzalez Chávez, Argentina

* 金銭的支援はなし。

4. 法人業務

4.1 公益社団法人移行後の体制整備

4.2 会議

* 理事会：平成 25 年度事業・予算計画策定(1 月)、平成 24 年度事業・決算報告等(翌 5 月)

* 定時総会：平成 24 年度事業・決算報告等(翌 6 月)

以上